



した水は、水道用水源で利用できる範囲（3mg/ℓ）
 一步前（3.5mg/ℓ）まで水質改善されていた。

この日は、水質検査と一緒に指標生物（川の環境を
 教えてくれる生物）の調査も行われ、参加した小学生
 は泥だらけになりながら川の中に網を突っ込み、生き
 物を採取していた。

そんな中「とったぞー」という大きな声にみんなの
 視線が集まり、声がしたほうに近づき網の中を覗くと、
 ウネウネと動く「ウナギ」が…。

楽しそうにしていた子どもを見つけて近寄ってきた
 のか。思いもよらない珍客に、指導者も思わず笑みが
 こぼれていた。

『思わぬ珍客に満面の笑み！』

広報おおさき2月号「手作り竹炭窯の火入れ式」で
 紹介した「くにの松原ネイチャーゲームの会」が、持
 留川下流の水質検査を行い、小学生30人、指導者7人
 の計37人が参加した。水質検査は、竹炭でろ過した水
 と、川からくみ上げたそのままの水を、アンモニアや
 リン酸、COD（科学的酸素要求量）など7項目に分
 けて検査した。

その結果、竹炭でろ過していない水は、農業用水と
 して使用できる範囲内（6mg/ℓ）に入っていたが、
 かなり汚れている事が分かった。しかし、竹炭でろ過



『242チームの頂点に…！』

3月2日から16日にかけて行われた、南日本新聞社
 主催の「第34回鹿児島県ちびっ子ソフトボール大会」
 において、大丸ソフトボールスポーツ少年団が鹿児島
 県少年ソフトボール242チームの頂点に輝いた。

同チームは、団員11人というギリギリの人数のなか、
 次々と強豪チームに競り勝ち、優勝旗を勝ち取った。
 主将の下井倉慶紀君は「11人という人数ですが、優勝
 できて非常にうれしいです。保護者・指導者の方など、
 周りの方々に支えてもらったおかげです」と、はつら
 つとした声で話してくれました。

『木の香り漂う新校舎がお目見え！』

3月15日(土)、持留小学校では新校舎落成式が行われ、
 建設に携わった関係者や地域住民など、約150人が集
 まった。

鹿児島県産の木材をふんだんに使った新校舎は、木
 の香りが漂い、落ち着いた外観は周りの風景に溶け込
 んでいるようだった。

落成式の後には、高校生クラブの太鼓グループ～響
 ～の太鼓演奏や、持留小学校の児童による合唱など、
 様々な催し物が出され、大変盛り上がっていました。

持留小学校の歴史にまたひとつ、新しい出来事が刻
 まれた日になりました。

